

意見聴取会の結果について

資料2-1

意見聴取会 開催概要

区、区内事業者の取組みや実態調査の結果等から見えてきたテーマについて、各テーマに取り組む事業者や関係者等から幅広い視点や専門的な観点から意見を聴取する。



【テーマ】

- ① 地域資源の活用 ② 事業者間のつながりを強化 ③ 支援機関との有機的な連携

【テーマ設定の背景】

- ① コロナ禍に事業者の稼ぐ力を高める取組みを進め、区内の魅力ある地域資源を活かした好事例が生まれている。これらの取組みを区内事業者に広く波及させることで地域経済の更なる活性化が図れるのではないかと。
- ② 「つながり」に対するニーズを把握しているが、今後の効果的な施策の展開について検討する必要があるのではないかと。
- ③ 事業者の経営課題が多様化・複雑化する中で、各支援機関が様々な支援メニューを実施している。中小企業支援の充実に向けて、更なる連携強化を図る必要があるのではないかと。

各テーマにおける参加者

テーマ① 地域資源の活用
令和6年6月25日 15～17時

テーマ② 事業者間のつながりを強化
令和6年7月2日 19～21時

テーマ③ 支援機関との有機的な連携
令和6年7月2日 15～17時

【座長】 亜細亜大学経営学部教授 伊藤副委員長 ※モデレーター・アドバイザーとして参加

【区内事業者】

【ホテル】 NOHGA HOTEL UENO TOKYO
 【珈琲焙煎所等】 株式会社縁の木
 【靴製造】 株式会社Verb Creation
 【飲食】 桜なべ 中江
 【カフェ・ギャラリー等複合施設の運営等】
 株式会社HAGISO
 【旅行】 クラブツーリズム株式会社
 (台東区 観光課へ派遣)

【地域の任意団体】

台東モノづくりのまちづくり協会
 エーラウンド実行委員会
 東京商工会議所台東支部青年部
 蔵前商店街
 池之端仲町商店会

【支援機関】

独立行政法人中小企業基盤整備機構
 東京都よろず支援拠点
 公益財団法人東京都中小企業振興公社
 一般社団法人台東区中小企業診断士会
 台東区しんきん協議会

意見聴取会の結果について

テーマ：①地域資源の活用

項目	主な発言	ポイント	指針への反映
1. 区内にある地域資源について	<ul style="list-style-type: none"> ・街並み・生活・文化等を通して得られる特別な体験が求められている。 ・芸者文化の発祥地吉原で、芸者が活躍した料亭の建物を昔の形のまま使うことは、地域のプライドの部分にも触れることができ、地元の方に評価され、喜ばれた。 	★人々を惹きつける地域資源が既にある。	「台東区らしさを官民が共に磨くことで、まちの価値を高めていく」という方向性を新たな指針で打ち出していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・台東区は、エリアごとに全然キャラクターが違う。 ・わざとらしく用意するよりは、発見していく余地を残す。自分たちが良い街だと思えることをやっていく発想。 	★今注目されていないエリア・業界・取組みでも魅力的な資源になりうる。	
2. 観光という光の当て方	<ul style="list-style-type: none"> ・観光というのは、結果として人々がどう評価するのかということ。お仕着せがましい観光ではなく、来る側が感じる観光、その背景にこそ力がある。 	★根源的なまちの成り立ちや地場産業など、まちが持つ背景に力がある。	
3. 地域資源を活用する上での留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・まちのアイデンティティを自分なりに吸収し、まちの呼吸とあった提案だからうまくいっている。 ・行政側からのトップダウン型ではなく、地域とつながることができる人が旗をふるべき。地元の人々の思いが最優先。 	★地域が中心となって、それぞれの事情に合わせて取組みを展開する必要がある。	取組みを推進する上でのポイントの1つとする。
4. 区に求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの色をどうまとめていくのか。台東区が目指すブランドはどういうものなのか。地域をまとめて輝かせることが大切。 	★台東区の魅力（地域資源）が次代に残り続けるために、どのように活用していくのかを検討する必要がある。	

意見聴取会の結果について

テーマ：②事業者間のつながりを強化

項目	主な発言	ポイント	指針への反映
1. つながる上での問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きイベントで事業者の数を優先してしまうと、やる気のない人も入ってしまい、イベント自体の魅力も低くなり、入って欲しい人も参加しないという悪循環になる。 ・イベントへの参加だけが目的ではなく、繋がりが欲しい方が入ることで、各社の工夫やコラボレーションが活発になり、イベント自体も盛り上がるようになった。 ・地域密着で横のつながりを大切にする商店街に魅力を感じる方をお誘いしているが、こちらの方向に向いてくださいとは言わない。 	<p>★意欲ある事業者や同じ志を持つ事業者がつながることが大切。</p>	<p>つながりで生まれる好循環を踏まえ、異業種や同じ志を持つ人が繋がれるような取組みを新たな指針に反映していく。</p>
2. つながることの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作っているものを別の視点から見るきっかけになる。 ・イベントでのコラボレーションにより、困ったら聞きあえる関係性となり、自分が作れるものが増えている。 ・B to BとB to Cの垣根は低くなっている。B to B型の企業でも、B to Cを持つことの重要性に気づいた方が良い。 	<p>★地域やイベントの活性化を促進し、新たな気づきやアイデアを生み、本業にも良い影響を与える好循環となる。</p>	
3. 改修予定の中小企業振興センターに「事業者が集まる」ために必要な視点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってから、名刺交換すれば良い。先に、一緒に何かをやる場、何らかの苦労がともにできる場となる設計が必要だと思う。 ・この施設に来れば事業者の情報が知れて何かしらのツテができる場 ・文化的なイベントもやれるような、敢えて産業以外でも使える施設にした方が良い。いつの間にかこの施設を知り、ついでにサービスを知る。 ・見た目が格好良い施設にした方がよい。 	<p>★人や事業者が集まる仕掛け（ハード面＋ソフト面）が必要。</p>	<p>中小企業振興センターの大規模改修案などに反映していく。</p>

意見聴取会の結果について

テーマ：③支援機関との有機的な連携

項目	主な発言	ポイント	指針への反映
1. 有機的な連携に向けた問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> 各支援機関も互いにどのようなことを行っているのか分からない。 支援機関同士の連携をするうえでも、連携する相手が何をやっているのか、支援機関としての考え方を知る必要がある。支援機関の集まる場、情報共有の場があるとよい。 	<p>★支援機関との連携強化を図るためには、情報共有の場、顔が見える関係づくりが必要。</p>	支援機関と情報交換の場を作り、現場の情報を伝えるとともに、各支援機関の取組みや得意分野の相互理解を進め、連携を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業と接点がある支援機関が、うまくコーディネートし、適切な支援機関に繋ぐことが必要。 	<p>★コーディネート機能が求められる。</p>	
2. 区が担う役割	<ul style="list-style-type: none"> 身近に相談できる「かかりつけ医」であるべき。事業者が相談するのは、顔が見える人。認知度を高め、気軽に相談できる窓口があることをPRすべき。 どんなに赤字企業でも「助けて」と求められているのであれば、区は味方になって相談にのるスタンスを崩してはいけない。 国や東京都の組織に、細かく企業を見てくださいといっても、なかなか難しい。区や信用金庫が情報を吸い上げて、振り分けるようなほうが良いのではないか。 	<p>★区が地域の中小・零細の事業者に近い存在として、身近に相談できる「かかりつけ医」のように頼られる存在にならなければならない。</p>	産業振興に携わる職員の取組み姿勢を新たな指針に明記していく。
3. 事業承継・廃業の課題感	<ul style="list-style-type: none"> 事業承継と廃業は極めて敏感な話であり、秘密厳守が大前提。 債務超過や、金融機関からの借入等の理由から金融機関に相談できない相談もあり、別の支援機関がそういう方の相談にのる必要がある。 早めの相談がとりうる選択肢を広げることにつながる。 	<p>★経営者にとってはデリケートな問題であるが、早期の相談で取りうる選択肢が広がる。</p>	各支援機関との更なる連携を、新たな指針に明記する。
	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業診断士のフレキシブルな頭でアドバイスすることが求められている。 公の機関もマンパワーの限界があり、必要に応じて専門性の高い支援機関に任せないといけない。 	<p>★一つの機関だけでは、解決が難しく、多岐に渡る専門的な支援が必要。</p>	